

研究速報

肝細胞癌患者に対する血中 HCV RNA 検出の意義

小林 進 林 春幸 伊藤 靖
浅野 武秀 磯野 可一

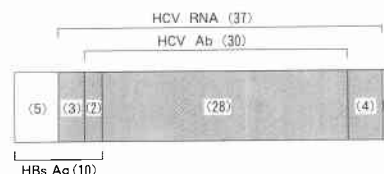
はじめに：1989年より臨床において HCV C100-3 抗体検査が導入され、肝細胞癌患者の70%以上が HCV 抗体を保有することが明らかとなった¹⁾。今回、肝細胞癌の HCV RNA の検出を行い、その意義につき検討したので報告する。

対象と方法：対象は1991年4月より、1992年3月までに当科に肝細胞癌の診断のもとに入院した43例を対象とした。HCV RNA の検出は、まず、患者血清より acid guanidine thiocyanate-phenol-chloroform 法により RNA を抽出し、さらに5'側非翻訳領域の2組の primer を用い、2段階の RT-PCR 法²⁾により HCV RNA の検出を行った。

成績：肝細胞癌患者43例の肝炎ウイルスマーカーの検出状況であるが、HBs 抗原陽性例は10例、HCV 抗体陽性例は30例であった。HCV RNA は37症例に検出され、HCV C100-3 抗体陽性例には全例 HCV RNA が検出された(Fig. 1)。HBs 抗原との重複例は5例であった。1例のみ HBs 抗原、HCV RNA 陰性であったが、HBs 抗体は陽性であった。

考察：今回、肝細胞癌患者43例の検討では、42例が HBV または HCV のいずれかの carrier であり、残りの1例も HBs 抗体陽性であった。このように、従来の HBs 抗原では肝細胞癌患者の約30%程度に検出されるのみであったが、HCV 抗体から HCV RNA まで網を広げることにより、ほとんどを拾いあげることが可能である。今回、1例のみが HBs 抗原、HCV RNA ともに検出されなかったが、HBs 抗体は陽性であり、全例、肝炎ウイルスへの感染の既往を伺い知ることがで

Fig. 1 The detection of hepatitis virus markers among 43 hepatocellular carcinoma patients.



きた。上記の観察期間中、HCV RNA を含め、肝炎ウイルスマーカーがすべて陰性で画像上、肝細胞癌と鑑別困難な肝腫瘍を2例、経験したが、1例は reactive lymphoid hyperplasia (RLH)、他の1例は、十二指腸からの魚骨の穿破を原因とした肝腫瘍であった。以上のように、画像診断により、肝細胞癌と鑑別困難な肝腫瘍を発見した場合、従来の HB 肝炎ウイルスマーカーから、HCV RNA まで検査の枠を広げ、すべての陰性である場合は、他の腫瘍を疑ってみる必要があると考えられた。

Key word : HCV RNA

文献：1) Kiyosawa K, Sodeyama T, Tanaka E et al : Interrelationship of blood transfusion, non-A, non-B hepatitis and hepatocellular carcinoma : Analysis by detection of antibody to hepatitis C virus. *Hepatology* 12 : 671-675, 1990 2) Okamoto H, Okada S, Sugiyama Y et al : Detection of hepatitis C virus RNA by a two-stage polymerase chain reaction with two pairs of primers deduced from 5'-noncoding region. *Jap J Exp Med* 60 : 215-222, 1990

Significance of Serum HCV RNA Detection for Hepatocellular Carcinoma Patients

Second Department of Surgery, Chiba University, School of Medicine

Susumu Kobayashi, Haruyuki Hayashi, Yasushi Itoh, Takehide Asano and Kaichi Isono

〈1992年11月11日受理〉別刷請求先：小林 進 〒260 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 千葉大学医学部第2外科